

囲碁入門講座通信 令和2年 第16号



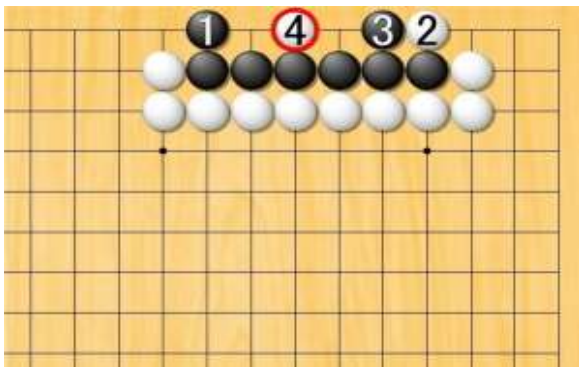
報告:有楽斎

毎月第二日曜日の午後1時半から午後4時ごろまで、朝日2丁目集会所で「囲碁入門講座」に、それなりに一所懸命取り組んでいるのですが、新型コロナウイルス感染を防ぐために、「三つの密」密閉・密集・密接を避けがたく、まことに口惜しところですが、**現在休局中です**。(棋士名は椿に因んだ名をニックネームとして表記しています)

今号も、入門者用に囲碁用語を少々ご案内したいと思います。(監修:太神楽(だいかくら)師匠)

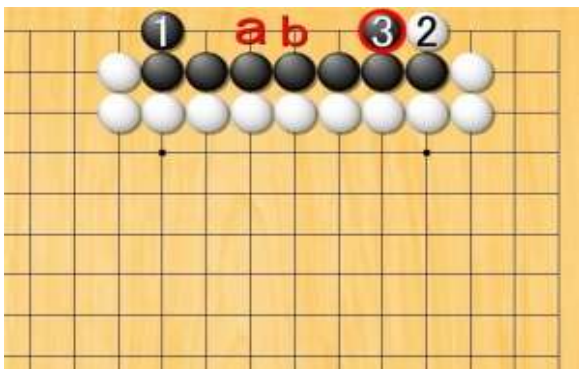
囲碁用語 初歩の死活(六死八活)

六死八活とは 六死八活という囲碁用語をご存知ですか? 「聞いたことはあるけど、人に説明できるほどわかってはいない」という方は、もう一度ここで復習しておいてください。六死八活の言葉の意味は、①二線に6個並んだ石は自分の手番でも生きることができないが、②二線に8個並んだ石は手抜きをしても生きている、という意味です。次のように図で示せば実に簡単なことです。



6並びは黒先黒死

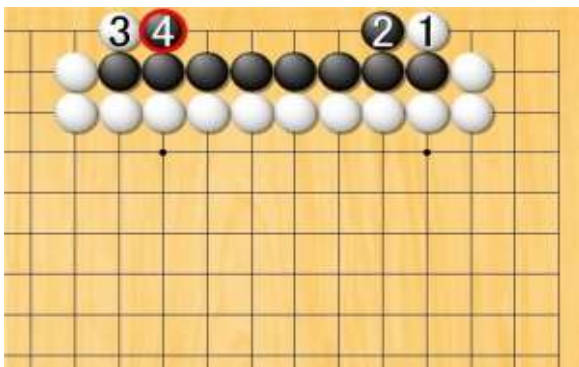
黒石が二線に6個並び、白に囲まれています。黒1とスペースを確保しても、白2とハネられて生きるスペースが狭められました。黒3に白4が「三目の真ん中」で、黒が死んでしまいました。これが「六死」の意味です。



7並びは先に打ったほうが勝ち

黒石が7個並ぶと黒1から3まで、今度は黒地が4目となっています。このあと、白aには黒bで生き。

ただし、白番なら黒死です。白に1と2の両方にハネられると、黒地は三目。その真ん中に白bと打たれて黒死となります。



8並びは白先黒生き

黒が二線に8個並んだ石は手抜きしても生きています。白1、3のハネには黒2、4と受けて横並びに4目の地ができました。つまり、「八活」です。

以上で六死八活の説明は終わりますが、最後に大事なことを付け加えますと、実戦では「二線で小さく生きるのは、たいていの場合良くない」ということです。相手の外側の壁(厚み)が強力になってしまうからです。以下次号

問題は、初級囲碁講座(無料講座)より引用しました。次号は9月20日発行予定です